

平成29年12月21日

三鷹市議会議長 宍戸治重様

文教委員長 吉野和之

文教委員会管外視察結果報告書

本委員会は、平成29年度管外視察を下記のとおり実施したので報告いたします。

記

1 視察期日

平成29年10月12日（木）から10月13日（金）まで

2 視察先

花巻市（岩手県）、北上市（岩手県）

3 視察項目

(1) 宮沢賢治記念館（花巻市）

(2) 日本現代詩歌文学館（北上市）

本市では、山本有三記念館を中心とした様々な取り組みや、太宰治に関連した「太宰が生きたまち・三鷹」の顕彰事業、「吉村昭文学回顧展」など、従来から、三鷹にゆかりの深い文学者に関する顕彰事業を実施してきた。

この度、文化の薫り高い三鷹のまちづくりをより深く推進するため、都立井の頭恩賜公園内に、太宰治と吉村昭を顕彰する「三鷹市立太宰治記念文学館（仮称）」及び「三鷹市立吉村昭書斎（仮称）」の整備に向けた取り組みを進めている。市民・都民の憩いの場である同公園内に、その恵まれた環境との調和を保ちながら、太宰治と吉村昭の遺品や資料等を保存・展示するほか、来館者、ボランティア等の交流や朗読会等のイベントを実施するとともに、井の頭恩賜公園の来園者の休憩所ともなる喫茶スペースの整備を計画している。本施設の運営に当たっては、文学館としての基本的な機能である資料の収集・保存、調査研究、展示公開、教育普及の活動を継続的に行っていくため、長期的な展望に立ち、資料、情報、研究成果や、それらを活用するノウハウを蓄積していくとともに、市民に愛され、市民によって支えられる施設として、ボランティアが活躍する市民等との協働の仕組みの導入を検討している。

そこで、本市議会としても、太宰治記念文学館（仮称）及び吉村昭書斎（仮称）の基本プラン策定、基本設計・実施設計など、今後の施設整備の参考とするため、先進事例である花巻市、北上市の視察を行った。

4 出張者

(1) 文教委員

吉野 和之、嶋崎 英治、大倉あき子、半田 伸明、谷口 敏也、
伊藤 俊明、西尾 勝彦

(2) 同行職員

スポーツと文化部長 大朝 摂子

(3) 随員職員

議会事務局調査担当課長 藤井 泰男

宮沢賢治記念館

1 宮沢賢治記念館について

詩人であり童話作家としても知られ、地質の調査に取り組み、教師や農業指導者として活躍した宮沢賢治の業績は、年を増すごとに高く評価され、岩手県内をはじめ全国の広い層の人々や海外の若い熱心な研究者の注目を集めている。花巻市では、これらの人々の期待に沿うため、宮沢賢治の生地・花巻で、岩手山や早池峰山の山々、黄金に広がる大穀倉地帯、清らかな北上川、猿ヶ石川が展望でき、自然が美しく、賢治の最も好きだった胡四王山の地に、宮沢賢治記念館を建設した。賢治の遺品をはじめ、関係資料を可能な限り収集・保存・展示し、多くの人々に供覧するとともに、全国的な研究会を開催し、関連事業として賢治詩碑、旧跡など自然環境保護育成に努め、賢治の文化遺産を、より正しく、現在と将来の世代に普及し、文化社会の発展に資することを大きな目的としている。



宮沢賢治記念館入口



宮沢賢治記念館

2 取り組みに至る経緯

昭和50年6月	記念館を胡四王山に建設することについての陳情書が市議会に提出される
10月	同上の陳情書を採択
昭和51年5月	財団法人宮沢賢治記念会を設立
9月	宮沢賢治記念会による募金活動の開始
昭和52年1月	記念館の建設、敷地購入について市議会全員協議会を開催
3月	記念館の建設基金条例を制定
5月	建設敷地20,398㎡を取得
8月	駐車場用地（胡四王山入口）6,643㎡を取得
昭和53年4月	建設予定地の埋蔵文化財の分布調査を実施
8月	駐車場（山頂892㎡）の建設工事に着手
昭和54年11月	駐車場の建設工事完成
昭和55年12月	展示基本構想の策定を依頼
昭和56年3月	建築設計を発注
4月	展示設計を発注
8月	記念館本体工事、収蔵庫、周辺環境整備、電気設備工事、機械設備工事を発注
昭和57年3月	記念館本体建設、設備工事完了
8月	展示工事完了
9月	宮沢賢治記念館条例制定、宮沢賢治記念館開館
平成27年4月	展示リニューアルオープン
8月	入館者700万人達成

3 施設整備費

敷地購入	19,850千円	募金額	
調査設計	18,300千円	昭和51年度まで	10,100,000円
記念館建設工事	299,770千円	昭和52年度	30,215,472円
展示工事	123,000千円	昭和53年度	28,046,200円
<u>合計</u>	<u>460,920千円</u>	昭和54年度	30,469,368円
(財源内訳)		昭和55年度	5,279,868円
一般歳入	83,370千円	昭和56年度	76,452,108円
県費補助金	20,000千円	昭和57年度	24,445,064円
地方債	138,700千円	<u>合計</u>	<u>205,008,080円</u>
繰入金	218,850千円		
<u>合計</u>	<u>460,920千円</u>		

4 施設の概要等

(1) 施設の概要

ア 敷地面積 24,358㎡

イ 記念館 鉄筋コンクリート造平屋建 1,135㎡（展示室 452.97㎡、休憩ホール 256.08㎡、事務室 98.62㎡、多目的ルーム 42.76㎡、特別展示室 60.72㎡、図書資料室、喫茶コーナー、展望ラウンジほか）

ウ 収蔵庫 石積造平屋建 39㎡

エ 駐車場 3,960㎡ 大型車7台、普通車40台

(2) 利用案内

ア 開館時間 午前8時30分～午後5時まで

イ 休館日 12月28日～1月1日

ウ 入館料

区 分	個 人	20人以上の団体
小学生・中学生	150円	1人につき100円
高校生・学生	250円	1人につき200円
一 般	350円	1人につき300円

※ 宮沢賢治童話村、花巻市博物館、花巻新渡戸記念館との4館共通入館券（1,000円）による入館者も多い。

(3) 展示リニューアル

宮沢賢治記念館は、昭和57年の開館以来、県内外から約700万人の来場者を迎えている。しかし、開館以来32年が経過し、展示施設が老朽化していることや現在まで積み上げられてきた研究の成果を展示内容に反映させるため、有識者に監修を依頼し、平成27年4月25日にリニューアルオープンした。スクリーン映像や関係資料を5分野（科学・芸術・宇宙・宗教・農）に分類し、解説と作品に至る創作過程、最新の研究成果などを展示紹介している。各展示スペースには、英語・中国語・韓国語の翻訳説明が見られるQRコードがあり、携帯電話をかざして利用できる。展示リニューアル工事に144,276千円、トイレ等改修工事に22,999千円の経費がかかっている。

5 資料の保存と公開

宮沢賢治記念館では約3,400枚の直筆稿をはじめとする賢治の資料を所蔵している。これらの資料は、ほとんどが大正期から昭和初期にかけて執筆された原稿類、つまり古い紙類で、今後、何も処置がされなければ酸性劣化が進行し、最終的には朽ちていくことが予想される。現状での展示は資料に負担がかかり困難といえるが、今後、計画的に修復等の処置が行われれば、特別展等で順次公開することが可能となる。ただし、公開を前提とした資料の修復、あるいは

現状を維持していくのに要する費用は決して安価なものではない。また、資料の状態は、執筆年や筆記具、用紙の種類といった違いが様々で、施す処置はそれぞれ異なる。一つ一つが慎重性を伴う作業であることから全てを一度に行うことは難しく、長期的な計画が必要となる。



石造りの収蔵庫

6 施設の管理運営経費

平成27年度決算

収入 入館料 40,850千円

行政財産使用料 2,136千円

(財団法人宮沢賢治記念会に売店と喫茶コーナー、株式会社胡四王物産に市が建設したレストハウス山猫軒を貸し出している。)

雑入 677千円

光熱水費 1,995千円

合計 45,658千円

支出 記念館管理費 48,828千円

(非常勤である副館長、社会教育指導員、学芸員の人件費は含むが、正職員である館長、上席主任2名の人件費は含まない。)

企画展示事業費 4,469千円

合計 53,297千円

7 解説案内、レファレンスの対応

入館者より要請があった場合は、社会教育指導員や観光ボランティアガイド(花巻観光協会)が、団体入館者を中心に館内解説や案内等に対応している。学習、調査、取材に対しては、副館長、学芸員が対応している。常設展示室が映像中心の展示となったため、展示内容の説明を兼ねて、展示監修者や記念館学芸員のギャラリートークを開催している。

8 入館者数の実績及び情報発信の手法

(1) 入館者数の実績

(単位:人)

年 度	入館者数	累計入館者数	1日平均
平成20年度	147,041	6,117,084	407
平成21年度	155,386	6,272,470	432
平成22年度	135,073	6,407,543	398
平成23年度	131,691	6,539,234	365
平成24年度	162,612	6,701,846	452
平成25年度	137,934	6,839,780	383
平成26年度	111,308	6,951,088	456
平成27年度	133,243	7,084,331	395

※ 平成26年12月～平成27年4月24日までリニューアル工事のため休館

(2) 情報発信の手法

- ・ホームページ、花巻市広報
- ・特別展のチラシによるPR
- ・宮沢賢治記念館通信
- ・来館者ノート

9 施設の評価及び今後の課題

個人を顕彰する施設としては、全国的に見てもトップクラスの入館者数となっている。北海道新幹線の開通により、東日本大震災後に岩手県への行き先を他県へ変更していた北海道の学校の修学旅行が戻りつつあるが、少子化の影響で子どもの入館者数については毎年減り続けている。また、冬季は積雪により観光バスが胡四王山の山道を登れなくなり、団体客などの受け入れができなくなることがある。昨年は、市の「賢治まちづくり課」と連携し、宮沢賢治の生誕120周年を記念した様々な行事や特別展を実施したが、宮沢賢治を観光資源化することについては抵抗感を示す人もいるため、キャラクターグッズなどの商品化については喜ばれない傾向がある。

◎ 主な質疑

- ・外国人来館者の割合と受け入れ体制について
- ・資料の保存と公開の基本的な考え方について
- ・研究目的で本施設を訪問した場合の直筆原稿等の公開について
- ・本施設を観光コースに組み込んだ旅行会社のツアーの有無について
- ・4館共通入館券の利用による各施設への相乗効果について
- ・イベントの企画・立案に関する基本的な考え方について

◎ 主な提供資料

- ・平成27年度宮沢賢治記念館年報
- ・宮沢賢治記念館展示リニューアル報告書
- ・宮沢賢治記念館通信
- ・宮沢賢治記念館パンフレット
- ・宮沢賢治記念館特別展のチラシ

北上市

日本現代詩歌文学館

1 日本現代詩歌文学館について

日本現代詩歌文学館は、全国でただ一つの詩歌専門の総合文学館で、平成2年に岩手県北上市の「詩歌の森公園」の一角に開館して以来、明治以降の詩・短歌・俳句・川柳といった詩歌文学に関する資料を有名無名にかかわらず収集・保存し、様々な活動を通して詩歌の現在を発信している。



日本現代詩歌文学館

2 取り組みに至る経緯

昭和50年代後半に首都圏の詩人、出版関係者などが中心となり、詩歌専門文学館の設立運動が始まる。

- 昭和58年 4月 北上市長（故斎藤五郎氏）が設立運動関係者と懇談
- 9月 北上市行政会議で文学館設置を正式決定
- 12月 北上市議会全員協議会で文学館設置構想を報告し承認される
- 昭和59年 1月 市長が詩歌文学館構想を市制30周年記念事業とする旨を発表
- 4月 北上市日本現代詩歌文学館条例及び基金条例を制定
民間組織「日本現代詩歌文学館振興会」設立
日本現代詩歌文学館振興会が詩歌資料寄贈及び募金活動を開始
- 12月 日本現代詩歌文学館運営審議会を設置し文学館の在り方を諮問
- 昭和61年 3月 同審議会が日本現代詩歌文学館の基本的な在り方について答申
- 平成2年 3月 管理運営の任意団体「日本現代詩歌文学館運営協会」を設立
- 5月 日本現代詩歌文学館落成式典・開館

3 施設整備費及び寄附の募集等

(1) 施設整備費

ア 日本現代詩歌文学館（本館）

地質調査・建築・設備設計業務	20,500千円
建築工事	526,000千円
電気・機械設備工事	171,800千円
収蔵設備工事	134,000千円
展示・舞台設備工事	64,935千円
外構・庭園工事	37,492千円
備品購入費	85,229千円
計	<u>1,039,956千円</u>

(財源 地域総合整備事業債 75%)

イ 日本現代詩歌研究センター（別館）

設計業務	8,925千円
建築工事	236,250千円
電気・機械設備工事	118,660千円
備品書架工事	112,350千円
計	<u>476,185千円</u>

(財源 地域総合整備事業債 75%)

ウ 山口青邨邸・雑草園（付属施設）東京都杉並区から移築

移築復元工事	46,144千円
樹木植栽工事	4,951千円
計	<u>51,095千円</u>



山口青邨邸・雑草園

(2) 寄附の募集等

日本現代詩歌文学館振興会が中心となり、昭和59年4月から資料の寄贈依頼と建設資金の募金活動を展開した。資料の受入先は日本現代詩歌文学館で

あり、募金は文学館基金条例に基づき基金に積み立てをした。（募金目標 3 億円）

基金の推移	平成 2 年 3 月	336,800 千円
	平成12年 3 月	376,080 千円
	平成19年 3 月	254,670 千円
	平成28年 3 月	184,402 千円

4 施設の概要及び展示の特色

(1) 施設の概要

ア 日本現代詩歌文学館（本館）

平成 2 年 5 月開館

鉄筋コンクリート造 地上 2 階・一部 3 階

建築面積1,998㎡（延べ3,165㎡）、書庫（収蔵20万冊）、展示室、講堂 243席、閲覧室、和室33畳（定員45名）、会議室（定員38名）、フリースペース（兼喫茶室）、特別収蔵庫、井上靖記念室39.6㎡（平成14年 5 月開設）

イ 日本現代詩歌研究センター（別館）

平成14年 5 月開館

鉄筋コンクリート造 地上 3 階

建築面積673㎡（延べ1,931㎡、渡り廊下含む）、書庫 1～3 階（収蔵59 万冊）、研究室（1 階・3 階）、資料整理室、研修室

ウ 山口青邨邸・雑草園（付属施設）

平成 6 年 4 月開館

木造瓦ぶき屋根平屋建 建築面積133㎡（移転復元工事）

(2) 展示の特色

ア 常設展は、年度毎にテーマを定め、詩・短歌・俳句・川柳の作品を取り上げ、文学館所蔵の直筆資料や視覚展示物などを交え開催している。

イ 特別企画展は、特定の時代や作家を多角的に取り上げ、美術や音楽などの多ジャンルの要素を取り込み、新たな文学展の形態を模索しながら開催している。

ウ 企画展は、新収蔵資料を中心に随時開催している。

5 展示資料の収集

資料収集は、寄贈が基本であり、文学館振興会が昭和59年 4 月に全国の詩歌人に寄贈を呼び掛けてから30年以上が経過し、詩歌資料の寄贈先の一つとして「日本現代詩歌文学館」の知名度が定着してきた。展示資料は文学館が収集し

た135万点の所蔵資料や全国の詩歌人に出典依頼した作品を活用し、テーマに沿って展示している。

6 組織体制及び管理運営経費

(1) 組織体制

ア 一般財団法人日本現代詩歌文学館運営協会（平成26年4月1日設立）

詩歌文学館の施設管理及び詩歌資料の収集、保存並びに閲覧、展示等についての業務を北上市から受託している法人

平成18年4月1日 北上市から指定管理者に指定

平成26年4月1日 任意団体の日本現代詩歌文学館運営協会（平成2年3月29日設立）が一般財団法人に移行

イ 日本現代詩歌文学館振興会（昭和59年4月29日設立）

詩歌文学館の設立の一翼を担い、文学館基金に協力するとともに、文学館が実施する資料収集や事業の支援を行う全国規模の詩歌人の任意団体

(2) 管理運営経費（平成29年度法人一般会計収支予算）

収入	指定管理料	117,670千円
	その他の収入	476千円
	<u>収入合計</u>	<u>118,146千円</u>
支出	施設管理費	94,834千円（人件費は約40,000千円）
	資料管理費	8,108千円
	企画事業費	15,204千円
	<u>支出合計</u>	<u>118,146千円</u>

7 市民との協働の取り組み

(1) サンチョク（産直）コーナー（1・2階のフロアー作品展：通年）

地元詩歌愛好者及び地元高校文化部の詩歌作品の展示（平成28年度参加者は延べ53人）

(2) 四季のフリースペース作品展

地元詩歌愛好者の作品展示（平成28年度の四季のテーマ：春「桜」31作品、夏「夏祭り」29作品、秋「紅葉」35作品、3月「いくつもの想いを乗せて～3.11と詩歌」27作品）

(3) 詩歌全国大会への地元詩歌愛好者の協力

- ・雑草園祭（山口青頓邸移築復年を記念した俳句全国大会）
- ・集い事業（短歌・俳句・川柳の全国大会）

8 カフェスペースの運営と活用

カフェスペースは、運営主体であるNPO団体が北上市と賃借契約を締結し

運営している。カフェスペースは、喫茶専用ではなく、フリースペースとして共同利用している。フリースペースは、一般市民が自由に休憩・談話できるスペースである。文学館では、年4回、地元詩歌愛好者の協力を得て「四季をテーマにした詩歌作品」の市民参加展示会をこのフリースペースで開催している。

9 施設利用状況等

(1) 施設利用状況

(単位:人)

区分	平成27年度	平成28年度	備考
閲覧室	1,020	957	
展示室	6,317	5,695	展示室・井上靖記念室
貸館	15,209	14,060	
視察見学等	7,629	5,945	フリースペース等を含む
雑草園(山口邸)	1,725	1,602	
合計	31,900	28,259	

(2) 資料整理の状況

(単位:冊・点)

種別	平成27年度	平成28年度	蔵書資料累計
図書・雑誌	37,892	26,613	1,265,003
特別資料	1,816	2,133	86,954
計	39,708	28,746	1,351,957

(3) 情報発信の手法

- ・ホームページ 平成10年3月開設、平成29年10月リニューアル
- ・ブログ「詩歌の森日記」 平成25年7月開設
- ・ツイッター 平成29年1月開設
- ・館報「詩歌の森」
- ・詩歌論文の発信 研究紀要「日本現代詩歌研究」
- ・詩歌雑誌掲載(常設展・特別企画展・企画展)

10 施設の評価及び今後の課題

(1) 施設の評価(平成28年度外部評価の結果報告書抜粋)

- ・日本現代詩歌文学館という全国にもまれな専門施設の設置意義は、我が国の「文化芸術の振興に関する第4次基本方針(2015年5月22日閣議決定)」に照らしても我が国が目指すべき「文化芸術立国」の姿を実現する意味でも、その先見性と存在意義は大いに評価されるべき施設と考える。また、今後、文化権の保護を官民協働で行うことや東京2020に向けた文化プログラムの実施を考えるときに、詩歌という日本固有の文化分野の中核的役割を担える施設として期待感が高まる。

- ・全国的な詩歌文学の拠点としての存在であるにもかかわらず、これを市や市民の利益に結びつくような取り組みになっていないように思える。
- ・市や市民の利益に結びつけるための検討と協議を行うべきではないか。
- ・短詩系文学の悉皆収集は、ともすると総花的でアーカイブの限界も感じる。絞り込みと深堀の方向性も検討すべき。
- ・全国で唯一の詩歌文学館という全国的価値を持つ施設を維持するという役割と北上市民にとっての文化的価値とを結びつける方向で、市の施策体系における位置づけをより明確にすることが望まれる。

(2) 今後の課題

日本現代詩歌文学館運営ビジョン（平成28年12月北上市策定）への対応

基本理念 「詩歌のまちづくりの推進」

基本方針 ・より専門性を高め、全国へ情報発信する

・収集資料の充実とレファレンス対応の充実

・地域に愛される施設として、価値を地域に還元する

基本政策 ・組織体制の強化

・資料収集、サービスの強化

・自主事業の充実

・保存収集、環境の整備

◎ 主な質疑

- ・イベントや特別企画展を実施する際の市民意見等の反映について
- ・短歌入門講座など各種講座の受講料金の徴収について
- ・市内小・中学生の施設見学及び職場体験の受け入れ状況について
- ・民間組織である日本現代詩歌文学館振興会が募金活動を始めた経緯について
- ・施設整備に活用した地域総合整備事業債の返済状況及び国からの交付税措置について

◎ 主な提供資料

- ・日本現代詩歌文学館の概要
- ・日本現代詩歌文学館本館及び詩歌研究センターの平面図
- ・日本現代詩歌文学館組織体制図
- ・常設展・特別企画展・企画展のテーマの一覧
- ・日本現代詩歌文学館館報（詩歌の森）
- ・日本現代詩歌文学館に関するQ&A
- ・パンフレット（日本現代詩歌文学館・雑草園・井上靖記念室）

〔最後に〕

以上、調査事項について資料等による説明、施設の見学、各委員の質疑等によって判明したことを含め、視察の概要を記した。

なお、視察項目の設定に当たっては、前述のとおり本市における現在の行政課題等を念頭に行ったものである。

また、視察時間を有効に活用するため、事前に視察項目に関する資料を収集し本市事業との比較、検討を行った上で視察に臨んだ。

本委員会は、これらの成果を今後の委員会活動はもとより、市行政に反映させていくことを確認し、管外視察の結果報告とする。